

平成29年度 学校評価実施報告書

幼稚園名 (京極 幼稚園)

1	幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する 保育の改善・充実		
<ul style="list-style-type: none">・心身ともに健やかな生き生きとした子どもの育成を目指す。・安心安定して幼稚園生活を送る中で様々な体験をし、豊かな心情・意欲・態度を身につけるようにする。			
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none">・保護者アンケート「お子さんは毎日喜んで登園していますか」「幼稚園には子どもがいろいろな経験ができる環境が整えられていると思いますか」の回答。・園内研究によって環境構成や教師の援助を見直したり工夫・改善するために話し合う。・写真・ビデオなど記録媒体を用いた客観的事実に基づく話し合いをする。			
<p>各種指標結果 (1回目)</p> <ul style="list-style-type: none">・アンケート①「お子さんは毎日喜んで登園していますか」→A『あてはまる』 30名/33名 B『どちらかといえばあてはまる』 3名/33名・アンケート②「幼稚園には子どもがいろいろな経験ができる環境が整えられていますか」→A 24名/33名 B 8名/33名・園内研究では写真を用いた事例研究を行い、具体的に話し合った。			
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none">・保護者アンケートの結果は①②ともに、Aの『あてはまる』Bの『どちらかといえばあてはまる』の評価を得ている。・環境が整えられているかという質問に対してはBの割合がやや多い。・写真を用いて事例を書いたことによって、遊びの流れや教師の意図した環境構成や援助について視覚的に共有でき、若手教員の学びにつながった。また、見えてくる子どもの姿(子どもの思い)もあり、より深い幼児理解へとつながった。		
<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">・『環境』については既存の環境に工夫を凝らしながら、教師が意図して子どもの育ちにつながっていることなどを積極的に保護者に発信する必要がある。・写真を用いることで、客観的に時系列で保育の振り返りができることを再認識した。今後も研修時に活用したい。			
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・幼稚園で工夫している環境、夢中になって遊ぶ姿を、回覧の月便りとともに、各戸配布の機関紙「きょうごく」に掲載し、発信すれば、みんなが京極幼稚園を知る機会になる。		
評価日	平成29年10月11日	評価者	学校評議員
<p>各種指標結果 (2回目)</p> <ul style="list-style-type: none">・アンケート①「お子さんは毎日喜んで登園していますか」→A『あてはまる』 29名/33名 B『どちらかといえばあてはまる』 4名/33名・アンケート②「幼稚園には子どもがいろいろな経験ができる環境が整えられていますか」→A 30名/33名 B 3名/33名・園内研究では外部からの講師を招き、他園の先生方や保育所の先生とも共に学ぶ場を設けた。			

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート1については前回とほぼ同じ回答である。 ・環境については、第1回目のアンケートよりもAの回答が増えている。運動会などで様々な運動遊具を取り入れたことや、日々のいろいろな素材や用具を使って、かいたりつくったり遊んだりしたことが要因として考えられる。 ・外部から講師を招いて勉強したことで、園内だけではない多様な意見やアドバイスを聞く機会となり有意義だった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降園時の口頭伝達の機会をよい幼稚園教育の発信の場と捉え、子どもが夢中になって遊ぶ姿やその意義などを引続き保護者に伝えていく。また、その際環境の工夫についても触れ、幼稚園の教育が環境を通して行うものであることも分かりやすく伝えていく必要がある。 ・今後も積極的に外部（講師・異校種間）と交流しながら学び合うようにしていき、自らの学びを広げると共に、幼稚園教育の発信に努めたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育「おひさま広場」で長い時間遊ぶことを楽しみにしている子どもの姿を見てみると、幼稚園が楽しいのだと感じる。また、年長児になり、園で遊んだことを積極的に話すようになった。年少児では登園の様子を見てみると、1学期に比べ、喜んで登園するようになっている。 ・ホームページはほぼ毎日、園児数程度のアクセスがあるなら、大変だが続けてほしい。130周年式典も機関紙を出したら、地域に発信できる。
	<p>評価日 平成30年2月23日</p> <p>評価者 学校評議員</p>

<p>2 小学校への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む 幼小接続の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の小学校と交流する中で、小学校の生活を知ったり、小学生から刺激をもらったりして子どもの経験の幅を広げ、安心して進学できるようにする。 ・入学時の小学校での授業参観と懇談、交流の事前研修、幼小連絡会などの機会に幼稚園の教育内容・活動や子どもの姿を小学校の教師に伝えたり、小学校の様子を知ることで幼稚園での生活の仕方や学びを考えたりする。 ・「親子で読書」では、絵本の大切さや楽しさを知らせ、100冊を目指し取り組む。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者懇談や、交流や事後研修での教員間の話合いの回数や内容 ・「親子で読書」の読書ノートの活用（100冊達成者数） ・保護者アンケート「地域と進んで連携しその特色（保育所、小中学校との交流）を生かした体験が、保育に取り入れられていると思いますか」の回答
<p>各種指標結果（1回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート「地域と進んで連携しその特色（保育所、小中学校との交流）を生かした体験が、保育に取り入れられていると思いますか」→A『あてはまる』 24名/33名 B『どちらかといえばあてはまる』 9名/33名 ・入学時に1年生の担任や小学校の管理職と懇談をしたり、授業参観や運動会の見学を行ったりした。また、地域の保育所との交流保育と研修は年間計画を立てて行っている。 ・読書ノートを見ると、園の毎週の絵本貸出しや地域の図書館などで、保護者が絵本を読み聞かせを多くの機会に行っていることがわかった。今の時点で読書ノートの記録によると、4月から読んだ本が、100冊を超えた家庭は6家庭ある。

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの保護者に地域と進んで連携しその特色（保育所，小中学校との交流）を生かした体験が，保育に取り入れられていると評価されている。 ・小学校教員と懇談を行い幼稚園での姿を伝えることで子どもの行動を理解した関わりをもってもらった。また，小学校の管理職にも園生活や来年度に入学する子どもの様子を参観してもらい，幼稚園教育を知っていただき，子どもを理解する機会をもっている。 ・保幼交流について，年長児は昨年からの交流なので深いかわりができている。 ・年長児保護者は昨年度からの「親子読書ノート」の取組が浸透し，子どもも絵本への関心は高くなり，100冊を超えている子どももいる。年少児保護者にも関心がもてるように取り組んでいきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小の教員間では懇談や参観する機会があったが，幼小の子どもは，1学期に年長児と1年生が1度交流できた。今後は，幼小での子ども同士のかかわりを広げ，幼稚園の子どもが小学校生活への憧れをもち，スムーズな進学につながるような交流の在り方を考えたい。 ・保幼の交流の内容や子どもの育ちを園便りやホームページなどで，保護者や地域に発信する。 ・読書ノートをほとんどの保護者が活用して読書に親しんでいるが，中には，あまり活用されていない家庭もある。本が好きと思える子どもになるように，園でも毎日読み聞かせをして，家庭につなげていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>小学校を楽しみにできる交流の取組はよいし，続けてほしい。それとともに，進学しても自信をもって行動できるように，小さな段差は自分で越えられるような，たくましさを育てるのが幼稚園教育の大事な役割だと思う。</p>
評価日	平成29年10月11日
評価者	学校評議員
	<p>各種指標結果（2回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート「地域と進んで連携しその特色（保育所，小中学校との交流）を生かした体験が，保育に取り入れられていると思いますか」→A『あてはまる』 25名/33名 B『どちらかといえばあてはまる』 7名/33名 C『どちらかといえばあてはまらない』 1名/33名 ・小学校との交流を多く持つことができた。交流を通しての子どもたちが楽しかったことが伺える。また鶴山保育所との交流も1年間通して行い，年長児は互いの名前を呼び合うなど2年間の成果が伺えた。 ・「親子読書ノート」の活用もでき，100冊を超えた子どもは21名/33名いた。中には300冊を超えた子どもは2名，200冊近い子どもも3名いた。家庭で絵本に親しんでおられるようだ。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と進んで連携しその特色（保育所，小中学校との交流）を生かした体験が，保育に取り入れられていると評価されていたが，後期は，どちらかといえばあてはまらないと答えられた方がいた。2学期以降地域の方とかかわる機会が増えたり，小学校との交流が多かったりする反面，わかりづらかったのではないかと思った。今後，地域との連携が保育にどう取り入れているか，明確にすることが大切になってくる。

	<p>・「親子で読書」の活用は、ノートに記載を見る限り家庭によってまちまちで、よく読まれている家庭と読まれない家庭とに分かれている。家庭の事情もあるが、わずかな時間でも親子でかかわり絵本を楽しんでもらえるようにしていきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携や保育にどう取り入れているか、また交流の意義を明確に保護者に伝え、子どもの姿や育ちを知らせ理解を得るようにする。 ・保幼小連携をこれからも続け、教員レベルの研修の充実を図り、小学校や保育所からも発信してもらえるように働きかける。 ・絵本の大切さ、絵本による子どもの育ちを伝え、読書ノートを活用し、100冊を超えることを目指し、親子で絵本に親しむように取り組んでいきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小連携についてわかりづらいのではないか。連携の目的やどんな交流を行っているのか、どのようなプラス面があるのか、小学校にどうつながっていくのかを、はっきりと知らせていけばいいのではないか。
	<p>評価日平成30年2月23日</p> <p>評価者 学校評議員</p>

3	<p>自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む</p> <p style="text-align: right;">心と体・生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな遊具で友達や教師と体を動かすことを楽しんだり、自分の力を試したりして自信をもつ経験ができる環境を構成する。 ・毎月の保健指導で生活習慣の大切さを知らせ、手洗い場での手洗い・うがいの仕方の表示などの環境構成を行い、家庭でもできるように、保護者啓発を行う。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「自分でできることは、最後まで自分でしようとしていますか」の回答 ・保健指導の年間計画の作成と毎月の見直し
	<p>各種指標結果(1回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート「自分でできることは最後まで自分でしようとしていますか」 →A『あてはまる』8名/33名 B『どちらかというにあてはまる』20名/33名 C『どちらかといえばあてはまらない』5名/33名 ・各月の体重測定(発育測定)の際に季節や子どもの実態に応じて視覚的に訴える補助教材を用いて保健職員が保健指導を行っている。 ・総合遊具や雲梯、竹馬など運動的な遊びを教師が意図的に保育に取り入れ、かかわることで、子どもが意欲的にやってみようとする姿が見られた。
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでC『どちらかといえばあてはまらない』が5名おり、A『あてはまる』が圧倒的に少なく、保護者の評価が厳しいといえる。生活習慣的な項目については、保護者は高い目標をもっているので厳しい評価になるのではないかと。 ・子ども向けに保健指導、保護者向けには毎月の保健便りでの啓発を行っている。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに合わせた目標設定，子どもの生活習慣が自立するための具体的な手立てについて，保護者に知らせていく必要がある。 ・『体を動かす』ということに特化したアンケート項目がないので次年度のアンケートでは新たに加えてはどうか。それによって，保護者が子どもの体を動かす意欲ということに対してどのように捉えているか把握していきたい。 ・保健指導においては，季節や子どもの実態とその時に流行している病気など，タイムリーに必要な情報を子ども・保護者・幼稚園が共有していけるような工夫をしていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育としてランチ（業者給食）を取り入れていることは，みんなが同じものを食べる機会となりよい。飽食の時代の子どものため，残すことに抵抗がないのかもしれないが，ものを大事にする指導が必要だと思う。
評価日	平成29年10月11日
評価者	学校評議員
	<p>各種指標結果（2回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート「自分でできることは最後まで自分でしようとしていますか」 →A『あてはまる』10名/33名 B『どちらかというにあてはまる』21名/33名 C『どちらかといえばあてはまらない』2名/33名 ・季節や子どもの実態に応じて毎月の保健便りを保健職員が作成し，啓発に努めた。 ・寒い時期でも，毎朝マラソンを行ったり，賀茂川に凧揚げに行くなどし，積極的に体を動かすようにした。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは前回よりもAとBの評価が増えている。成長に伴い，自分でできることが増えたり，しようとする意欲が伸びてきているためと考えられる。 ・流行性の感染症について分かりやすい記事を載せているにもかかわらず，じっくり読んでいただけない保護者もいる。「保健便りに載っていますよ」と伝えても手元に残していない場合もあるようだった。 ・寒くても体を動かすことで，体が温まったり，汗が出たりするのだということを，子どもは体感していた。また，体力面だけでなく，継続して頑張ろうとする意欲も育ち内面の成長にもつながった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの実態とそれに合わせた“自分でできること”を伝えていく必要がある。“誰かと比べて”とか“一般的に考えて”というのではなく，個人がどれだけ変化しているかということに目を向けられるように，子どもの成長を日々細やかに伝えていきたい。 ・幼稚園からの手紙は重要なことが書いてあるということを手紙配布時に口頭でも伝え，しっかり読んでもらうようにする。来年度はファイルを配布し，年度末まで手紙を大切に保管してもらえようようにする。 ・冬でもしっかり体を動かす経験は，体力づくりの面でも大切なので続けていきたい。
学校関係者	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マラソンの取組は体を丈夫にするという面と友達と切磋琢磨できるという教育的意義があると思われる。 ・インフルエンザが流行し，学級閉鎖の措置などで小学校も大変だったようである。幼稚園ではどのように危機管理しているのか。学校や園医と連携し管理に勤めてほしい。

評価		
	評価日 平成30年2月23日	評価者 学校評議員

4 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する
信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え
 ・夢中になって遊ぶ中で友達の良さに気付いたり、自信をもったりする姿を教師が進んで認め、子どもが互いに認め合う温かな人間関係を築く学級経営をする。
 ・遊びや生活の中でのトラブルでは、相手の気持ちを知ったり、自分の気持ちを伝えたりして歩み寄り、折り合いをつけて遊びや生活を進められるように援助する。

（取組結果を検証する）各種指標
 ・保護者アンケート「教職員は子ども一人一人に温かいかわりをしていると思いますか」
 ・園内研究の保育やエピソードから、子どもが折り合いをつけて遊ぶための指導について話し合う。

各種指標結果（1回目）
 ・保護者アンケート「教職員は子ども一人一人に温かいかわりをしていると思いますか」の回答 →A『あてはまる』 24名/33名 B『どちらかといえばあてはまる』 9名/33名
 ・外部講師を招いて、5月の年長児の研究保育、夏のエピソード研究や園内人権研修等で子どもの姿を話し合う。

自己評価
 分析（成果と課題）
 ・保護者アンケートの回答では、ほとんどの保護者が温かいかわりをしていると評価されている。
 ・園内研究や園内研修などで日々の子どもの姿から、子どもが互いに認め合う温かな人間関係を築く学級経営を目指すためのかわりや遊びについて話し合いを持っている。また、遊びや生活の中でのトラブル時には、折り合いをつける心を育てる大切な機会ととらえ、発達段階や個性に合わせた援助の在り方を考えてきた。

分析を踏まえた取組の改善
 ・今後も、教職員は子どもと保護者に対して温かくかわり、明るい雰囲気づくりをする努力を続ける。
 ・子どもが自己発揮して遊べる環境と教師の援助、そして遊びや生活の中でのトラブル時の援助について、研究保育やエピソード研修で探る。

学校関係者
 学校関係者による意見・支援策
 運動会では、全員が竹馬にのっていて、感動した。竹馬や冬のマラソンごっこのように、たくさんの友達と切磋琢磨できる経験が大切である。子どもがどんな遊びでも思いきり自分の力を出せるようにしてほしい。

評価	評価日 平成29年10月11日	評価者 学校評議員
----	-----------------	-----------

各種指標結果（2回目）
 ・保護者アンケート「教職員は子ども一人一人に温かいかわりをしていると思いますか」の回答 →A『あてはまる』 28名/33名 B『どちらかといえばあてはまる』 5名/33名 教員からはC『どちらかといえばあてはまらない』という回答があった。

<p>・園内研修での子どもの姿についての話し合いや幼稚園に来られた方からの園の印象について伺った。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートでは、前期に比べて後期 A の評価が伸びた。保護者の方とも信頼関係が深まり安心して園に預けてくださっているのではないかと思う。保護者の方も自分の子どもだけでなく京極幼稚園の子どもという目で子どものいいところを見つけてくださっていた。トラブルも少なくなり、折り合いをつけ楽しそうに遊ぶ姿が多く見られるようになってきた。この姿を大切にしたい。 ・教員の回答 C について、「子ども一人一人の思いを受け止めたいが、十分にできていない」と悩んでいるようで、“OJT” で先輩教員が子どもとかかわる姿を見ることで勉強していきたいと思っている。 ・式典や参観などで来られた方から、「しっかりしてしている」、「落ち着いている」との評価をいただいたことで、子どもの姿を客観的に見ることができた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の子どもの姿から、子どもが互いに認め合う温かな人間関係を築ける指導のあり方を考え、園内研究や研修の充実を図る。 ・子どものいろいろな姿や感情も受け止め、温かくかかわっていけるように今後も務める。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節目節目にいろいろな行事があり、子どもの成長を見ることができてよかった。たくさんのお客さんの前で歌うには自信をもっていることが大事で、それを感じることができた。 ・京極文化祭など地域の行事に子どもが参加することで、地域に子どもの成長が発信できることはよい。
	<p>評価日 平成30年2月23日 評価者 学校評議員</p>

<p>園独自の項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児クラス「うさぎ組」「ひよこ組」で、親子で楽しめる遊びを紹介したり、保護者の話を聞いたりして、安心して過ごせる場所となるようにする。 ・「ほっこり子育てひろば」を少人数で行い、保護者の子育て観を知り、子育てが楽しめるように、話し合う機会をもつ。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児クラスの記録の活用 ・「ほっこり子育てひろば」の実施回数と報告
<p>各種指標結果（1回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児クラスの担当者が毎回記録をつけている。「ひよこ組」では子どもが喜んだ手遊び、歌、パネルシアター、絵本名が記録されている。「うさぎ組」では子どもの好きな遊びの様子がわかるようになった。 ・「ほっこり子育てひろば」は6回実施、3人～7人の少人数で行い、報告を行っている。少人数のため、話しやすい雰囲気があり、様々な子育ての話聞くことができる。

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが喜んだ遊びを繰り返し行うことで、親子で幼稚園に遊びに来ることが楽しみになったようである。遊びのことだけでなく、親子の様子、気になったことも記録できたら関わる時の参考になる。 ・ほっこり子育てひろばでは保護者一人ずつが我が子の悩みを出して、他の母親が答えるという場になっている。第1子をもつ保護者は安心する様子うかがえる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の記録には、担当者が気になったことや親子の様子を具体的に書いたり、口頭で報告を園長が受けたりするようにする。支援が必要かなど、親子にかかわりながら継続的に様子を見る。 ・若い保護者の悩みが共有され、アイデアをもらおうという、保護者同士が育ちあう懇談になるように、引き続き取り組む。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>ひよこ組やうさぎ組の取組、預り保育を最大6時までしていることなど、地域に知らない人がまだ多いのではないかと。ポスターの掲示や前から貼ってあるものは新しいものに張替えをしたらよい。</p>
<p>評価日 平成29年10月11日 評価者 学校評議員</p>	
<p>各種指標結果（2回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児クラスの記録によると、子どもたちは担当者への親しみを感じたり、担当者が提示する手遊びや絵本に興味を示したり、親子で楽しめるようになってきた。また、未就園児保護者は年長児の姿を見て、「あんなことができるようになるのですか」と我が子の成長を期待する機会となり、幼稚園教育を発信する場になった。 ・「ほっこり子育てひろば」は年間で11回実施した。第1子の保護者の子育ての悩みを聞き、先輩の保護者が経験談を話したり、代替策を考えたりする場になった。 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後半は乳児でも担当者に親しみをもち、遊具のやり取りをするなど自然にかかわりを持つことができた。子どもが安心して過ごせるように見慣れた場でお気に入りの遊具を出すこと、親子で新しい遊びをやること、など環境の作り方が分かった。ほとんどの保護者が受容的に子どもに関わり、保護者同士悩みを出し合い最後は笑って頑張る気持ちになっていた。 ・「ほっこり子育てひろば」では保護者同士の育ち合いが見られた。経験を話したり、解決策を考えたりする中で、子育てで何を大事にするか、共通理解し、ありのままの我が子を受け止めることができた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児保護者に、担当者や園長が時間と場所を継続して提供することが、保護者が幼稚園教育に対する興味をもつことになる。保護者がコミュニケーションを楽しめるような温かな雰囲気を作りたい。また、運動会、生活発表会などの行事にも参観を呼びかけたい。 ・保護者は子育てに努力して、かかわり方を工夫していることが感じられた。今年度のテーマである「自我の芽生えと生活習慣」については、「いつのまにかできるようになった」「大きくなったらできる」という意見がよく聞かれた。しかし、大人の働きかけは必要で、放置したり幼稚園に任せてしまったりせずに、家庭でも認めながら身につけるように促し

	ていくことは、今後も伝えていきたい。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	<ul style="list-style-type: none"> ・若いお母さんは幼稚園に未就園児教育相談や預り保育があることを知らないのではないか。ホームページで発信したり、「ほっこりハート」や児童館など若いお母さんが集まる場所にPRに行くことも効果があるのではないか。 ・未就園児ひよこ組，うさぎ組から入園につながるように，何か働きかけが必要だと思う。今の母親のニーズを調べてみたらよいと思う。 	
	評価日 平成30年2月23日	評価者 学校評議員